令和８年１１月９日

令和８年度 病害虫発生予察情報 第８号（１１月予報）

群馬県農業技術センター
土壌・病害虫部　発生予察係
（病害虫防除所）
TEL　0270－62-1059
FAX　0270－20-8016

【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	発生時期	発生量
野菜類・花き類	アブラムシ類	栽培地帯全域	－	並
	ハスモンヨトウ	栽培地帯全域	－	並
トマト・キュウリ	コナジラミ類	施設栽培地帯全域	－	並
キュウリ	褐斑病	施設栽培地帯全域	－	やや多い
	べと病	施設栽培地帯全域	－	並
	うどんこ病	施設栽培地帯全域	－	並
	アザミウマ類	施設栽培地帯全域	－	並
イチゴ	うどんこ病	施設栽培地帯全域	－	並
	ハダニ類	施設栽培地帯全域	－	並
ネギ	さび病	栽培地帯全域	－	並
	ネギアザミウマ	栽培地帯全域	－	並
	シロイチモジヨトウ	栽培地帯全域	－	並

（発生時期の－は連続発生）

【主な病害虫の発生予報】

Ⅰ）野菜類・花き類

	発　生　地　域	発　生　時　期	発　生　量
ハスモンヨトウ	栽培地帯全域	―	並

1　予報の根拠

（１）現在までの発生量は平年並である。

（２）県内のフェロモントラップ調査の誘殺数は、４地点中１地点で平年に比べて多い。

（３）向こう１か月の気象予報（１１月５日発表）によると、平均気温は高い確率５０％である。

2　防除上注意すべき事項

（１） 老齢幼虫は昼間、株元に隠れているため防除が困難となる。このため、ほ場をよく見回り、若齢幼虫の発見に努め早期防除を行う。

（２） 施設栽培では、開口部に防虫ネット（目合い２．０～４．０㎜）等を設置し、成虫の侵入を防ぐ。成虫が防虫ネットに産卵し、ふ化した幼虫が施設内に侵入することがあるため、卵塊やふ化幼虫を見かけた場合は速やかに除去する。

（３）薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続散布を避ける。

（４）今後、気温が高く推移すると予想されているため、発生量が増加するとともに、平年より遅い時期まで飛来が続く可能性がある。県が発表するトラップ調査結果等の情報を参考にし、ほ場内の発生に注意する。

Ⅱ）トマト・キュウリ

	発　生　地　域	発　生　時　期	発　生　量
コナジラミ類	施設栽培地帯全域	―	並

1　予報の根拠

（１）現在までの発生量はトマト・キュウリで平年並である。

（２）向こう１か月の気象予報（１１月５日発表）によると、平均気温は高い確率５０％である。

《発生しやすい条件：生育適温２０～３０℃で、乾燥条件の場合。》

2　防除上注意すべき事項

（１）タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病やキュウリ退緑黄化病のウイルスを伝搬するので注意する。
現在までのトマト黄化葉巻病の発生量は平年並、キュウリ退緑黄化病の発生量は一部地域でやや多い。発病株を発見した場合は直ちに抜き取り、施設外へ持ち出して適切に処分する。

（２）施設の開口部は全て防虫ネット（目合い０．４㎜以下が望ましい）を設置して、施設内への侵入を防止する。

（３）多くの植物に寄生するため、ほ場及び周辺の雑草は除去する。

（４）黄色粘着板を設置し、成虫の発生状況を把握しながら適期防除を行う。

（５）薬剤散布は幼虫が寄生している葉裏に薬液が十分かかるように行う。また薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続散布を避ける。

（６）抑制キュウリの栽培終了後は、施設を１カ月程度密閉して蒸し込み処理を行い、餓死させる。

Ⅲ）キュウリ

	発生地域	発生時期	発生量
褐斑病	施設栽培地帯全域	―	やや多い

1 予報の根拠
（１） 現在までの発生量はやや多い。
（２）向こう１か月の気象予報（１１月５日発表）によると、平均気温は高い確率５０%、降水量は多い確率４０%である。

《発生しやすい条件：発病適温２５～３０℃で、高温多湿条件。》

2 防除上注意すべき事項
（１） 窒素過多および肥料切れにより発生が助長されるため、適切な肥培管理を行う。
（２） 特に高温多湿条件で発生が助長されるため、過繁茂を避けハウス内の換気をこまめに行うなど、施設内の適切な温湿度管理を行う。
（３） 被害葉は次作の感染源となるので、適宜つみ取って適正に処分する。

	発生地域	発生時期	発生量
べと病	施設栽培地帯全域	―	並

1 予報の根拠
（１） 現在までの発生量は、平年並であるが一部地域で多い。
（２） 向こう１か月の気象予報（１１月５日発表）によると、平均気温は高い確率５０%、降水量は多い確率４０%である。

《発生しやすい条件：生育適温２０～２５℃。草勢の低下や多湿条件で発生量が増加。》

2 防除上注意すべき事項
（１） 肥料切れや草勢の衰えは、本病の発生を助長するので、適切な肥培管理を行う。
（２） 多湿条件下で発生が多く、施設内が多湿気味に管理されると発生が急激に増加するため、ハウス内の換気をこまめに行うなど、施設内の適切な温湿度管理を行う。

【その他の病害虫の発生予報】

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	特記事項
野菜類・花き類	アブラムシ類	－	並	各種トラップへの誘殺数は平年並。
キュウリ	うどんこ病	－	並	現在までの発生量は平年並。 多発してからの薬剤散布では防除効果が劣るので、発生を認めたら早めに防除する。
	アザミウマ類	－	並	現在までの発生量は一部地域でやや多いが平年並。 抑制キュウリの栽培終了後は、施設を密閉し蒸し込み処理を行い、餓死させる。
イチゴ	うどんこ病	－	並	現在までの発生量は平年並。 多発してからの薬剤散布では防除効果が劣るので、発生を認めたら早めに防除する。
	ハダニ類	－	並	現在までの発生量は平年並。 発生量が多くなると防除が困難になる。天敵導入前の防除を徹底し、天敵導入後には影響のない薬剤を選択する。
ネギ	さび病	－	並	現在までの発生量は平年並。
	ネギアザミウマ	－	並	現在までの発生量は平年並。
	シロイチモジヨトウ	－	並	現在までの発生量は一部地域でやや多いが平年並。

【コラム】－抑制キュウリ栽培終了後の蒸し込み方法－

現在の栽培で発生しているコナジラミ類・アザミウマ類を次作に
持ち越さないために栽培終了後の蒸し込みを行いましょう!!!

《方法》

・栽培作物の地際部の切断、適用薬剤による処理などで全ての株を枯死させます。
・その後、施設を密閉し蒸し込み処理を行います。
　気温が低い１１月～１２月頃は、1カ月程度、施設を密閉しましょう。

《注意》

施設内に雑草が残っていると効果が劣るため、処理前に除草を行います。

【今月の気象情報】

関東甲信地方　１か月予報

（１１月８日から１２月７日までの天候見通し）

令和８年１１月５日
気象庁　発表

＜向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

要　　素	地　　域	低い(少ない)	平　年　並	高い(多い)
気　　温	関東甲信地方	１０	４０	５０
降 水 量	関東甲信地方	３０	３０	４０
日照時間	関東甲信地方	４０	３０	３０

＜概　要＞

向こう１か月の平均気温は高い確率５０%、降水量は多い確率４０%、日照時間は少ない確率４０%です。

＜参　考＞　　前橋地方気象台観測平年値（１１月）

	平均気温（℃）	降水量（mm）	日照時間(時間)
１半旬	１３．６	８．１	３０．０
２半旬	１２．７	６．７	２９．６
３半旬	１１．６	７．７	２９．７
４半旬	１０．６	７．７	３０．６
５半旬	９．７	７．３	３０．６
６半旬	９．０	６．５	３０．５

農薬の登録内容は随時変更されておりますので、防除薬剤については指導機関にご相談下さい。
また、以下のホームページでも確認できますのでご利用下さい。

◆　農林水産省 農薬コーナー　（農薬に関する様々な情報）
http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html

◆　農薬登録情報提供システム（最新の農薬登録状況の検索や登録・失効農薬情報等）
https://pesticide.maff.go.jp

◆　群馬県　農作物病害虫・雑草防除指針
https://www.pref.gunma.jp/06/f0900064.html

◆　群馬県農業技術センター 病害虫発生予察情報一覧
https://www.pref.gunma.jp/07/p14210015.html

◆　ぐんま病害虫ライブラリー
https://sites.google.com/view/g-byougai

病害虫発生予察情報
一覧はこちら！